

平成 27 年度 発達障害理解推進拠点事業  
成果報告書（概要版）

実施機関名（仙台市教育委員会）

1. テーマ

「すべての教職員が障害のある幼児児童生徒一人一人に応じた適切な指導・支援に取り組むために」

発達障害に関する理解，児童生徒の実態把握の仕方，校内委員会の持ち方，個別の教育支援計画の作成，授業改善や学級経営の工夫等，発達障害に関する研修や実践により教職員の向上を図る。

2. 問題意識・提案背景

通常の学級において，発達障害のある児童生徒への対応が求められており，児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために，すべての学校種が校内支援体制の充実を図るとともに，教員の専門性の向上が課題となっている。

仙台市では，平成 16 年度より「特別支援教育コーディネーター養成研修」を実施し，受講修了した教員はおよそ 1,600 名に上る。市立学校園の多くが特別支援教育コーディネーターを複数配置し，課題解決に向け各学校で取り組んでいる。

また，本市では平成 18 年度より「特別支援教育実践研究協力校（毎年 20 校程度）」を認定し，全教職員が特別支援教育（発達障害の理解啓発を中心に）の実践研究を行ってきた。

これまでの取組から，各学校園では一定程度の発達障害の理解啓発が図られ，校内支援体制が整備されてきた。今後は特別支援教育のより一層の充実を図るため，「授業改善」「職員の専門性向上」「より効果的に機能する校内支援体制」を 3 本の柱として実践兼研究を行った。

3. 拠点校について

○ 拠点校一覧

設置者	学校名（ふりがなを付すこと）
仙台市教育委員会	仙台市立東二番丁小学校（ひがしにばんちょうしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立東長町小学校（ひがしながまちしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立小松島小学校（こまつしましょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立新田小学校（しんでんしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立太白小学校（たいはくしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立蒲町小学校（かばのまちしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立幸町南小学校（さいわいちょうみなみしょうがっこう）
仙台市教育委員会	仙台市立馬場小学校（ばばしょうがっこう）

仙台市教育委員会	仙台市立将監西小学校 (しょうげんにししょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立高森小学校 (たかもりしょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立住吉台小学校 (すみよしだいしょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立南吉成小学校 (みなみよしなりしょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立柳生小学校 (やなぎうしょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立泉松陵小学校 (いずみしょうりょうしょうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立北仙台中学校 (きたせんたいちゅうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立蒲町中学校 (かばのまちちゅうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立八乙女中学校 (やおとめちゅうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立松陵中学校 (しょうりょうちゅうがっこう)
仙台市教育委員会	仙台市立仙台大志高等学校 (せんたいたいこうとうがっこう)

○ 理解推進地域内の学校一覧

設置者	学校名 (ふりがなを付すこと)
仙台市教育委員会	仙台市立幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 中等教育学校, 特別支援学校 全 193 校園

4. 拠点校における取組概要

<p>19校の各拠点校がテーマを設定し、全教職員が発達障害理解推進に係る研究に取り組んだ。拠点校が行う研修会は近隣の学校への参加を呼びかけ、理解推進を図った。19校の主な取組は以下のとおりである。</p> <p>① 仙台市立東二番丁小学校 互いの個性を認め合い、共に学び合う児童の育成を目指し、「交流及び共同学習」「SSTの活用」「校内研修の充実」の3つの視点から全校で取り組んだ。</p> <p>② 仙台市立東長町小学校 配慮の必要な児童について、学校全体で共通理解し、様々なアプローチで支援できるよう校内の支援体制を段階的に工夫した。さらに、児童が安心して学校生活をおくるために、校内研修を行い、教員の意識を高めて支援に当たった。</p> <p>③ 仙台市立小松島小学校 当校が取り組んできた「こまつしまプラン」を検討し、全ての児童に対して実態に応じた支援を行える体制に再構築した。</p> <p>④ 仙台市立新田小学校 児童一人一人の教育的ニーズに応じた効果的な支援をするために取り組んできた、教師や児童の特別支援教育に対する理解推進の在り方、保護者との連携、校内体制や環境づくりについて報告する。</p> <p>⑤ 仙台市立太白小学校 配慮を要する児童に対する支援の方策として、「具体物・反具体物を使った算数的操作活動」「レディネステストによる既習事項習得状況の把握」「個別の支援チェック表による児童の特性の理解」を基にした授業づくりを工夫した。</p>
---

⑥ 仙台市立蒲町小学校

学力向上を目指した取組の一つとして、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて研究・実践をしてきた。学習や生活のルールの明確化や個別指導の充実等、当校の「型」を模索した。

⑦ 仙台市立幸町南小学校

全職員の特別支援教育に関する専門性の向上を図り、児童理解を深めるとともに、特別に配慮を要する児童も含め、全ての児童が楽しいと感じ、分かる授業を目指し、「ユニバーサルデザインの授業づくり」に取り組んだ。

⑧ 仙台市立馬場小学校

全職員が共通理解をしてユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに取り組んだ。

⑨ 仙台市立将監西小学校

支援を必要とする児童の課題の要因を探り、ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり・環境づくりの研修と実践に取り組んだ。

⑩ 仙台市立高森小学校

「職員の特別支援教育に対する基本的理解の促進」「児童の（内面的・外在的）行動に関する理解の促進」「段階的な支援についての検討」の三つの視点から研究した。

⑪ 仙台市立住吉台小学校

通常の学級に在籍する配慮を要する児童に対する取組として、全職員が校内研究の中でユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業に取り組んだ。

⑫ 仙台市立南吉成小学校

特別支援教育の視点を生かしながら、どの子にも居場所のある安心した学級を作ること、どの子にも分かる授業づくりを目指し、授業づくりや学級経営のための手立て・工夫などについて一人一人の教員が実践した。

⑬ 仙台市立柳生小学校

『どの子にも分かる』をテーマに、授業づくり・学級づくり・環境づくりに取り組んだ。ユニバーサルデザインの4つの視点「焦点化」「視覚化」「共有化」「個別の支援」に焦点を当て、実践を進めた。

⑭ 仙台市立泉松陵小学校

昨年度に引き続き、松陵中学校と同じ研究テーマを設定し、「研修」「把握」「授業」「移行」の4本を柱として研究してきた。当校では、27度は特に教師の指導力を高めるために、授業づくりに力を入れてきた。小中合同研修会を開催したり、小中学校の教員がお互いの授業を参観したりするなど、小中9年間を見通した取組を行った。

⑮ 仙台市北仙台中学校

教員が「やらないでいる」のではなく「できないでいる」生徒もいると見方を変えることで、より生徒に寄り添った対応を考えられるようになり、個々についてしっかり理解することの重要性を認識し、多様な手立て

を講じた。

⑯ 仙台市立蒲町中学校

どの生徒にも分かる授業づくりを目指し、9教科で取り組んだ「ユニバーサルデザインの授業づくり」と「校内支援体制づくり」や「小学校との連携」について、2年間実践に取り組んだ。

⑰ 仙台市立八乙女中学校

校内支援体制を整えながら、特別支援教育のニーズに対応するための工夫に取り組んだ。ユニバーサルデザインやアクティブラーニングの手法について研修したり、教員間の連携について検討と実践を行ったりした。

⑱ 仙台市立松陵中学校

昨年度に引き続き、「研修」「把握」「授業」「移行」という4本の柱を立て実践研究を進めてきた。泉松陵小学校と情報交換しながら取り組んだ。

⑲ 仙台市立仙台大志高等学校

学校生活を送る上で学習面や行動面において特別な配慮が必要と考えられる生徒について、個別の指導計画の作成とその情報の共有に取り組み、併せて就労支援への活用方法を検討した。

## 5. 主な成果

○ 特別支援教育実践研究協力校

特別支援教育実践研究協力校（拠点校）19校では、特別支援教育についての理解推進、校内の特別支援教育体制の充実、授業づくりや指導方法の工夫などのテーマに取り組み、各校での特別支援教育に関する教員の専門性の向上や、特別支援教育の充実が図られた。校内での実践研究のほか、外部講師を招聘しての研修会では、近隣の学校へ参加を働きかけた。

○ 特別支援教育実践研究協力校報告会

報告会と講演を開催した。市立学校や国立附属校から約280名の参加者があり、特別支援教育実践研究協力校（拠点校）の研究成果を全市立学校に周知することができた。

また、講演では、「これからの特別支援教育を支える授業づくり～通常の学級における合理的配慮を考える～」というテーマで、東北福祉大学 教育学部 教授 大西孝志 氏から話をいただいた。参加者からは、「合理的配慮が4月から法的義務になると聞き、漠然とした不安を感じていたが、学校における合理的配慮の基本は、これまでやってきたことをさらに深く、しっかりと考えていくことであると感じた。」「実にわかりやすい説明で、学校がこれからやるべきことが実感できた。」等の声が聞かれた。それぞれの校種や立場の教員に、多くの示唆をいただくことができた。

○ 特別支援教育コーディネーター連絡協議会

全ての市立学校から特別支援教育コーディネーターが参加し、情報交換や協議を行ったことにより、特別支援教育コーディネーターとしての役割を確認したり、特別支援教育推進に関する課題意識を明確化したりし、特別支援教育コーディネーターとしての専門性を向上させることができた。

- 特別支援教育コーディネーター地区別連絡協議会  
38 地区ごとに、特別支援教育に関する研修会、授業研究会、情報交換会などが自主的に活発に行われ、各地区の実態に応じた特別支援教育の推進に向け、教員の専門性を向上させることができた。

## 6. 今後の課題と対応

- 特別支援教育実践研究協力校  
特別支援教育実践研究協力校（拠点校）を毎年 20 校程度認定しているが、複数回認定を受ける学校がある一方で、未実施の学校もある。28 年度は初めて認定を受ける学校を増やしていく。
- 発達障害専門性向上検討会議  
発達障害専門性向上検討会議は開催し、27 年度の本事業の取組に対する評価を行った。28 年度は、計画の段階から専門家等の意見を求め、より充実した内容となるように取り組んでいきたい。
- 特別支援教育フォーラムの開催  
27 年度は特別支援教育実践研究協力校報告会で講演を行った。多くの参加者があり、自校の取組に生かすために、講演の内容を持ち帰って伝講したい等の感想が寄せられた。一方で、参加者の多くが各学校で特別支援教育の担当をしている教員が多数を占めた。28 年度は管理職や通常の学級の担任の参加をさらに促したい。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- |             |                               |
|-------------|-------------------------------|
| (1) 担当部署    | 仙台市教育局学校教育部特別支援教育課            |
| (2) 所在地     | 仙台市青葉区上杉一丁目 5 - 12 上杉分庁舎      |
| (3) 電話番号    | 022-214-8879                  |
| (4) FAX 番号  | 022-264-4437                  |
| (5) メールアドレス | takashi_yamada@city.sendai.jp |